



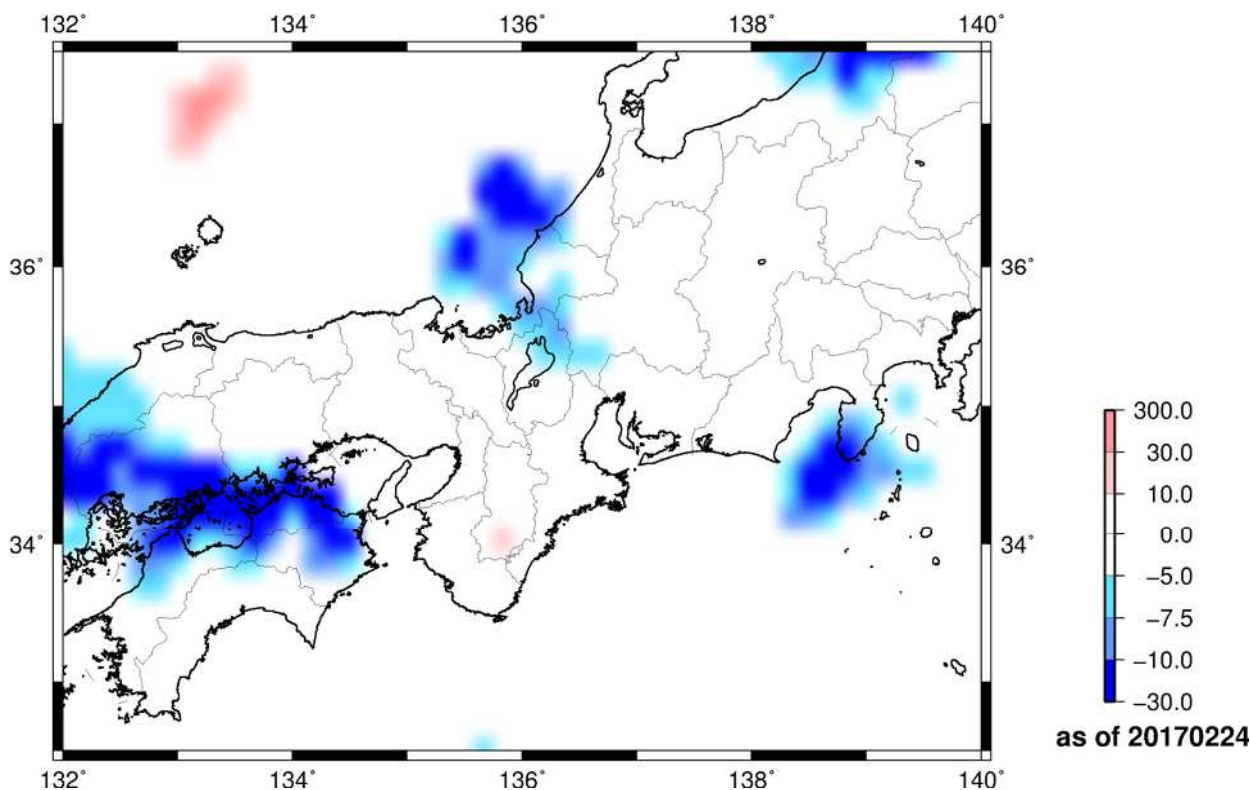
DuMA ニュースレター

2017年2月27日

中部・近畿・中国・四国地方の地下天気図®

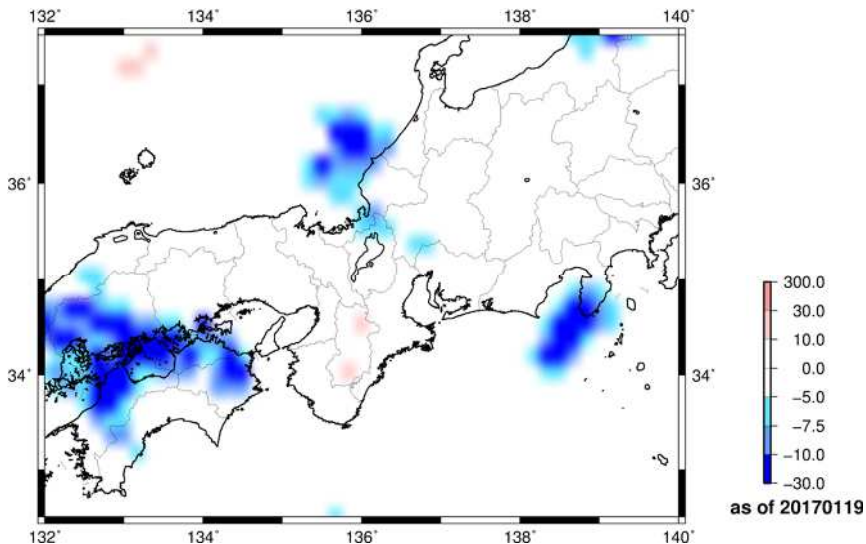
今のところ世間の動きとは違い、地震活動は平穏な状態が続いています。1月23日のニュースレターに引き続き、中部地方以西の状態をお知らせします。この地下天気図解析では、2001年以降の16年間に及ぶ地震データを使っているため、比較的短期間では大きな変化をしにくいのが特徴です。

下の図は2月24日時点の地下天気図です。



東日本大震災以降のデータだけを使った解析では、中国・四国地方の異常はより中国地方で大きくなっていますが、より長期間のデータを使った解析では、かなり四国にも異常が広がっている事がわかります。また石川県・福井県周辺の異常や伊豆半島沖の異常は前回の解析と比べて大きく変化していない事がわかります。

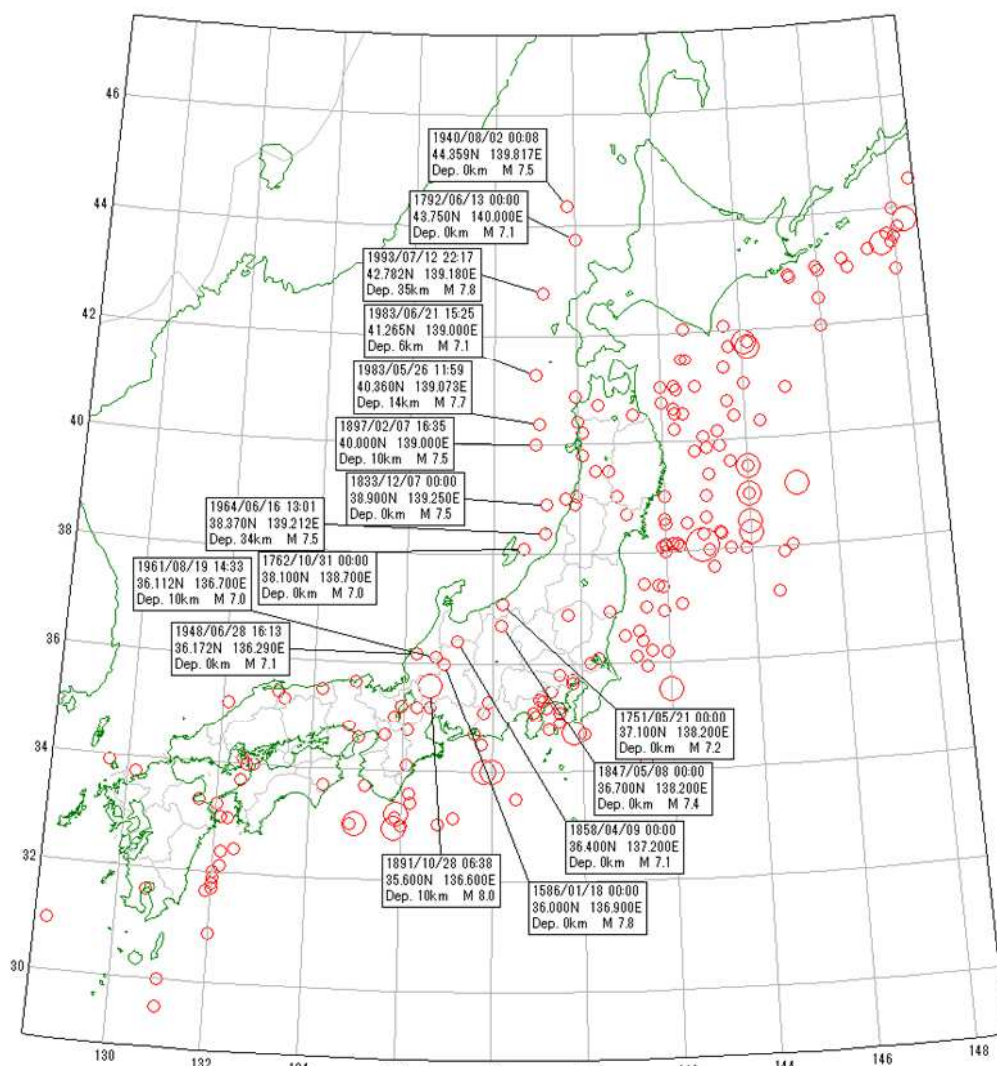
1月24日のニュースレターでお知らせした1月19日時点の地下天気図





“歪集中帯”とは

皆さまは“歪集中帯”という言葉をお聞きになった事がありますでしょうか。日本では、歴史的に日本海東縁部（北海道の西側沖合、青森沖、秋田沖、山形沖、新潟など）、さらに内陸に入り、新潟-長野-富山-岐阜-福井-滋賀-京都-大阪-兵庫と連なる地域で歴史的に大地震が発生していたのですが、その理由がわかりませんでした。19世紀以降でも善光寺地震(1847)、飛越地震(1858)、濃尾地震(1891, 内陸地震では史上最大の地震、M=8.0)、大町地震(1918)、北丹後地震(1927)、福井地震(1948)、新潟地震(1961)、長野県西部地震(1984)、兵庫県南部地震(1995)、新潟県中越地震(2004)、新潟県中越沖地震(2007)、長野県北部栄村地震(2011)、長野県神城断層地震(2014)などとなっています。これらの地震がなぜ帯状の地域で発生していたのかの説明がこの“歪集中帯”の発見により説明できるようになったのです。



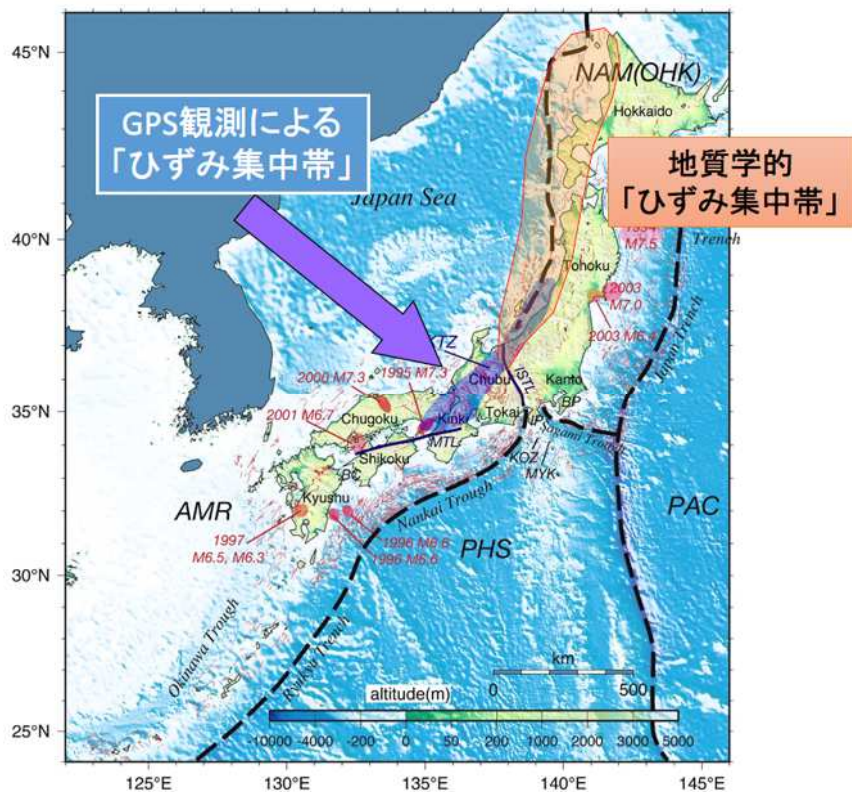
紀元 700 年から 2015 年までのマグニチュード7を超える地震の分布

これはカーナビゲーションでお馴染みの GPS が実用化され、地殻変動が短期間で精度よく測定できるようになったためです。1995年に発生した阪神大震災以降、GEONETと呼ばれるGPSを用いた観測網が国土院によって日本全国に配備された事により、発見されたものです。陸



域のものは新潟-神戸歪集中帯と呼ばれる事があります。さらに前述の日本海東縁部も歪集中帯と考えられています。

この地域は周囲より変形が大きく、相対的にこの帯状の地域に地震を引き起こす歪が蓄積される速度が大きいという事がわかりました。



そのため、日本海では、すでに1980年代から予知連会長も務められた東北大学の竹政和教授は、以下のように日本海東縁で秋田沖に空白域がある事を指摘しており、ある意味この「秋田県沖地震」も東海地震と同じように「想定されている」地震なのです。

